

iPad コンテンツメディア分析

2010 May
Concent, Inc.

iPad UIの特性

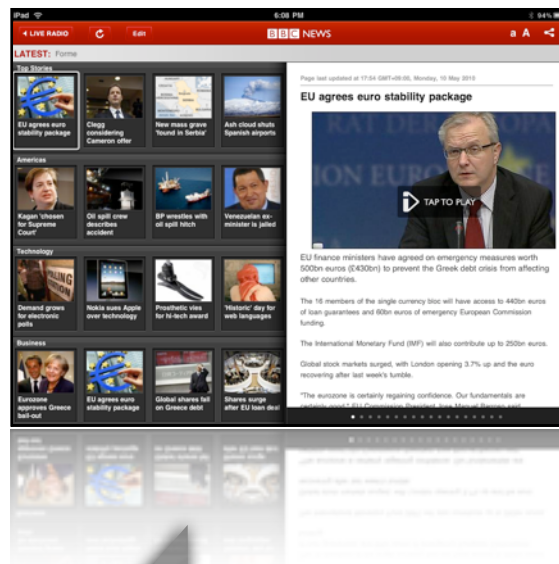
- “アプリケーション”と”ブックマーク（Webサイト）”は同列に選択肢となる
- 「こする」操作が多用されている
→ 「ページめくり」が想定される動き
- 「ローラーオーバー」が存在しない
→ 「タッチでナビゲーション表示」UIが多用されているが、ルールは整備されていない

iPad UIについての参考資料

- Nielsen Norman Group Report:
Usability of iPad Apps and Websites: First Research Findings
<http://www.nngroup.com/reports/mobile/ipad/>
- LukeW | Touch Gesture Reference Guide
<http://lukew.com/ff/entry.asp?1071>

iPadのオンラインコンテンツ

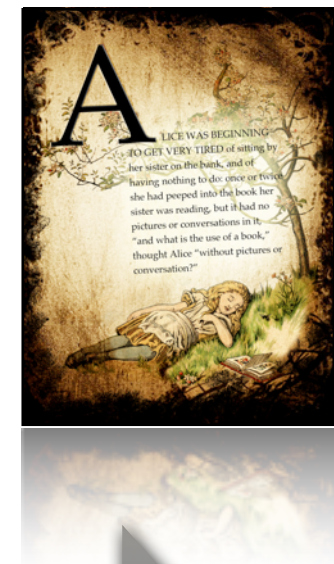
- iPadのコンテンツは、コンテンツ更新頻度での観点で
以下のように類型化・特徴抽出可能



高頻度更新
ニュース



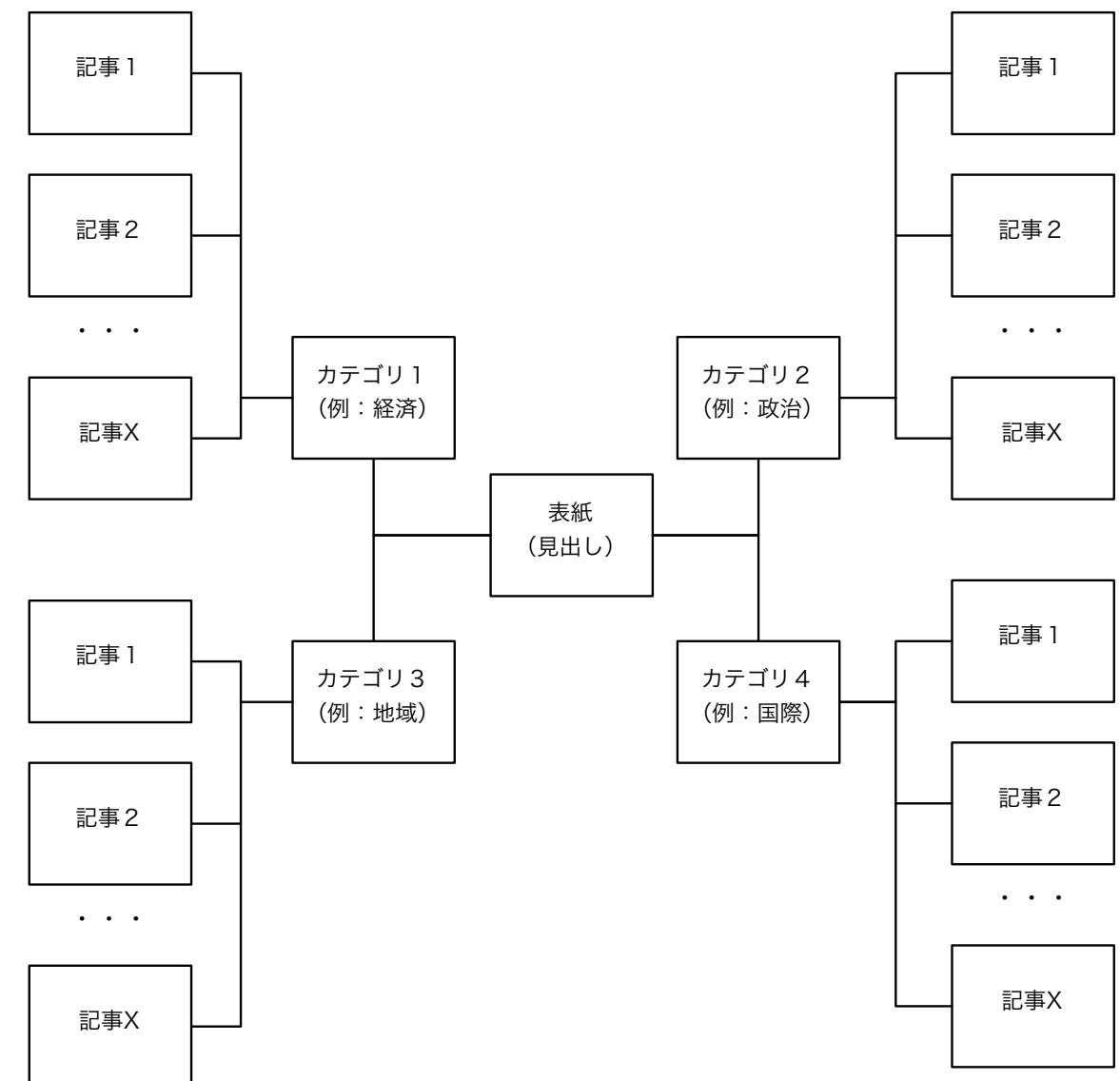
低頻度更新
“雑誌”



更新なし
電子書籍

I. ニュース媒体のメディア特性

- 個々の独立したニュースから構成されている
- 日刊・週刊といった単位で発刊されている→発刊単位で「号」のまとまりが生じている
- 見出し←→記事の「ハブ&スポーク型構造」



図：ハブ&スポーク型構造

ニュースコンテンツ比較

- ハブ&スポーク型の各ニュースコンテンツのUIを比較すると、モジュールナビ型から一覧-詳細型までのバリエーションが見られる

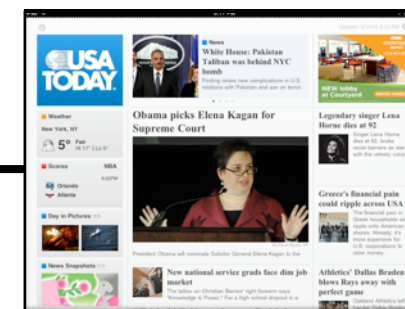
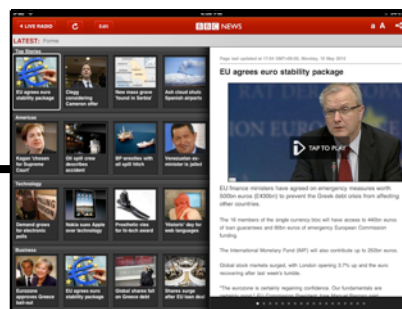
モジュールナビ型
BBC NEWS

ハイブリッド型
REUTERS

一覧-詳細型
USA TODAY

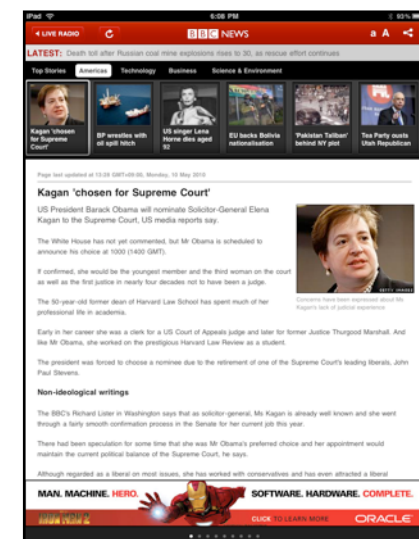
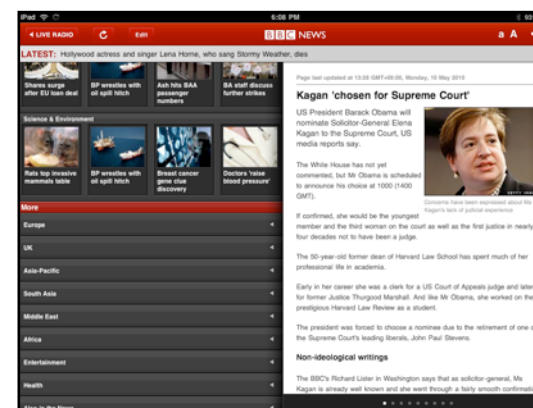
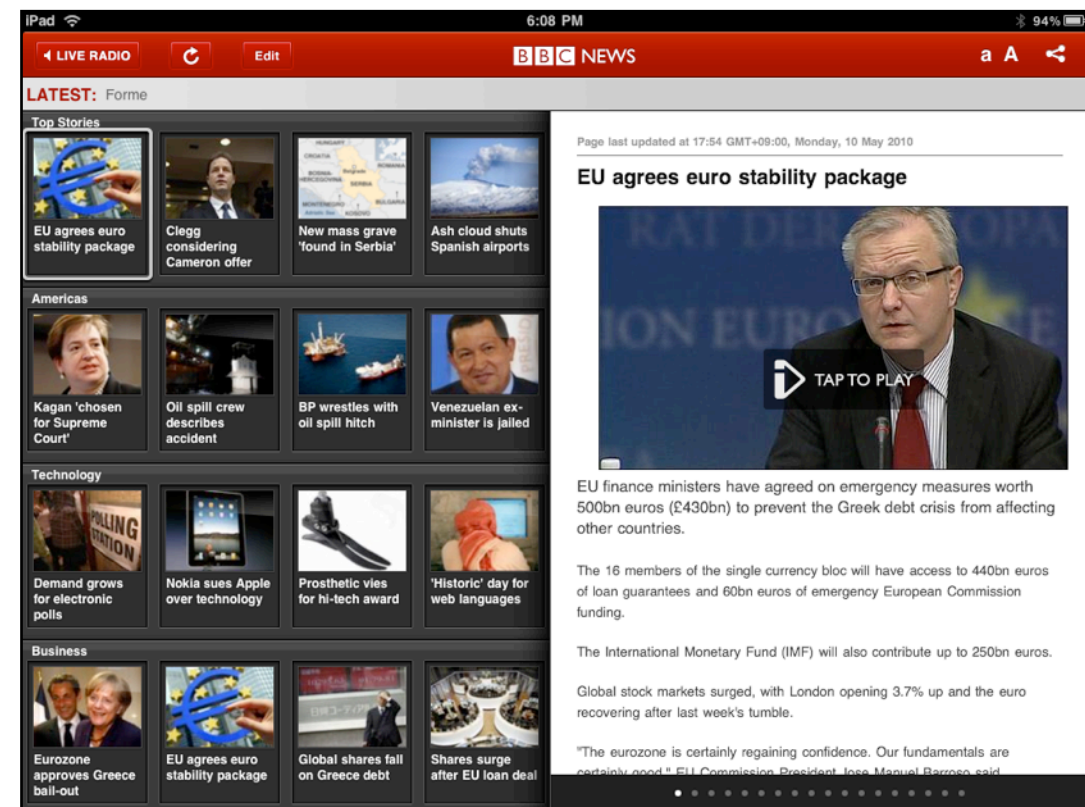
機能的

新聞風



BBC NEWS

- 紙メディアのフォーマットにとらわれない機能的なUIで、効率的にニュースを閲覧可
- カテゴリの全体像が見えやすく、全体構造もわかりやすい
- BBCの情報設計ノウハウが反映されている
- どの記事が更新されているのか、日単位なのかといった、更新情報がわかりにくい



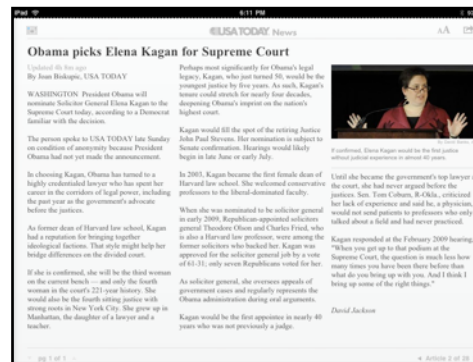
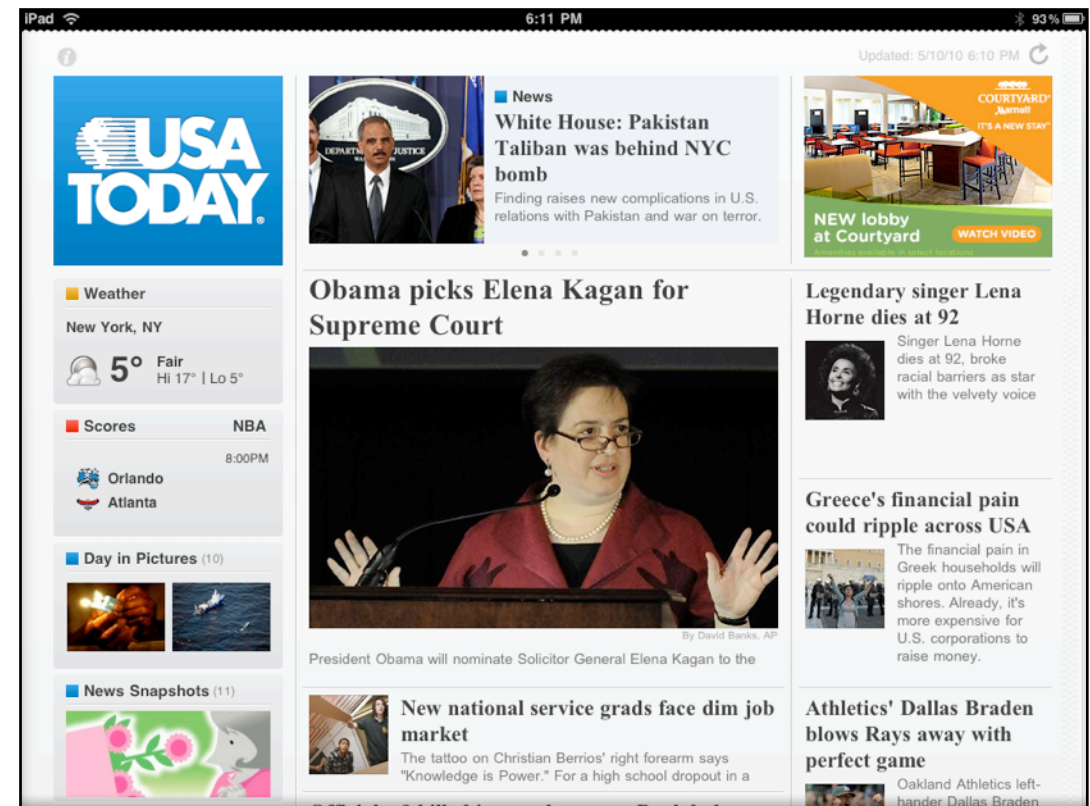
Wall Street Journal for iPad

- 週単位で課金される、有料配信メディア
- 毎号作り込まれたレイアウトで、紙版以上の手間がかけられており、読み応えもある
- 画面はスクロールさせず、ページをめくる必要がある
- 各記事への遷移、紙面構造はわかりにくく、コンテンツ内で現在地がわからなくなってしまう



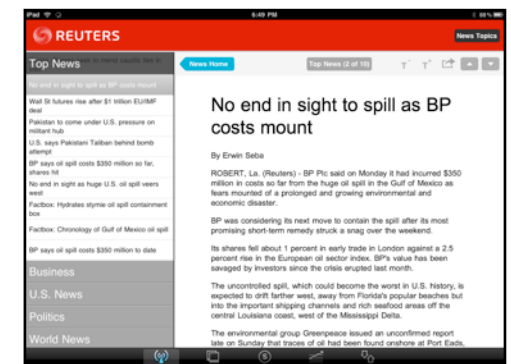
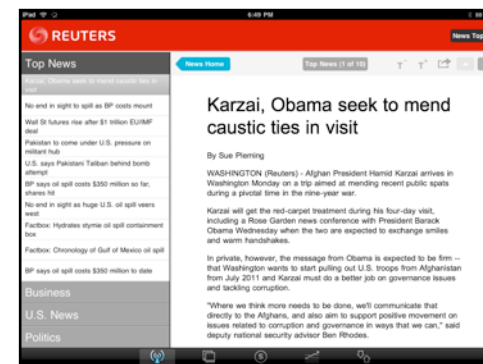
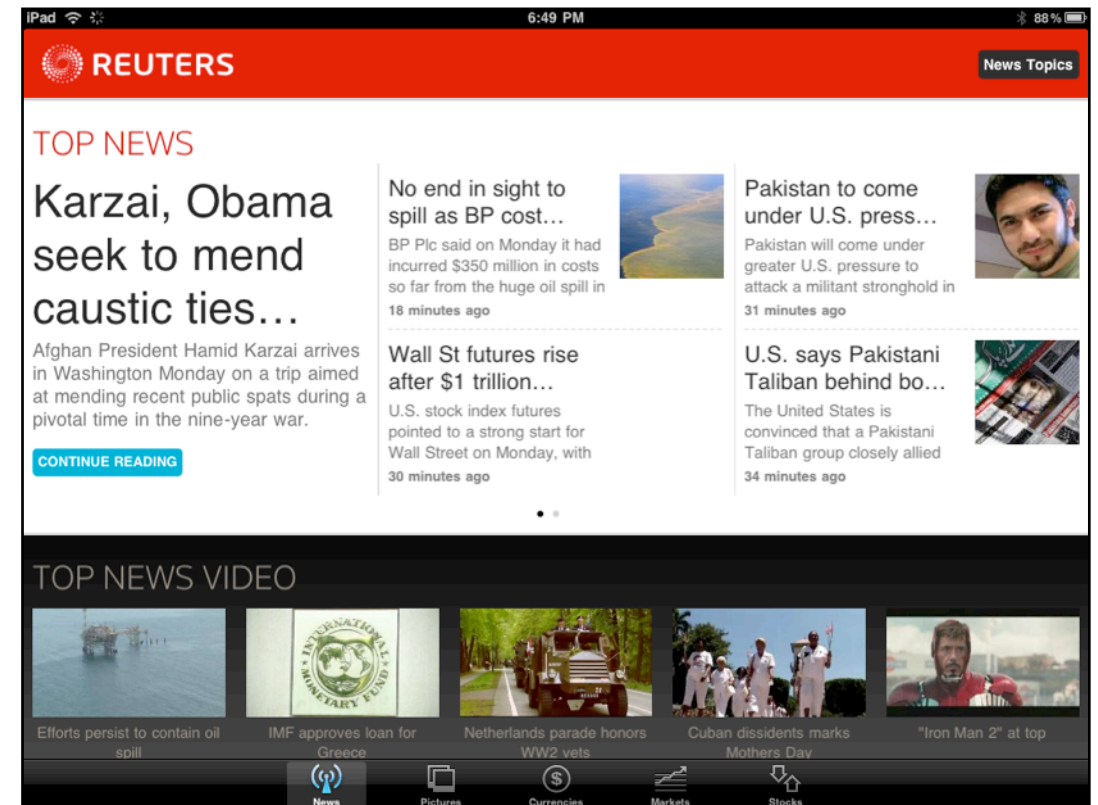
USA TODAY

- 紙の新聞のような画面構成で、親しみやすいと考えられるが、画面構成としては無駄がみられる
- 見出しページと記事詳細ページをいったりきたりしなければならない
- 実際のUSA TODAYにあわせた色展開を行っている

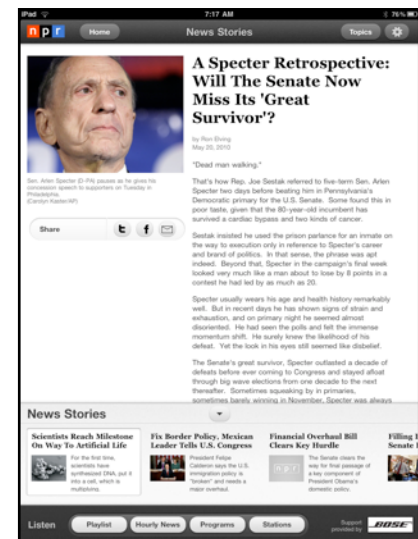
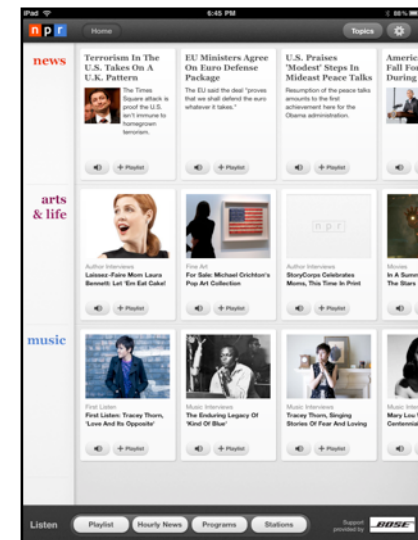
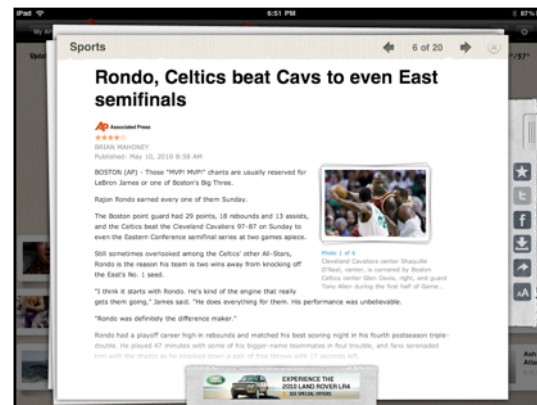


REUTERS

- 表紙（トップページ）はフリーレイアウト、個々の記事では、モジュールナビゲーションのハイブリッド型
- 各記事では効果的に記事を観覧できる
- トップと下位階層で見え方が異なる



他のメディア



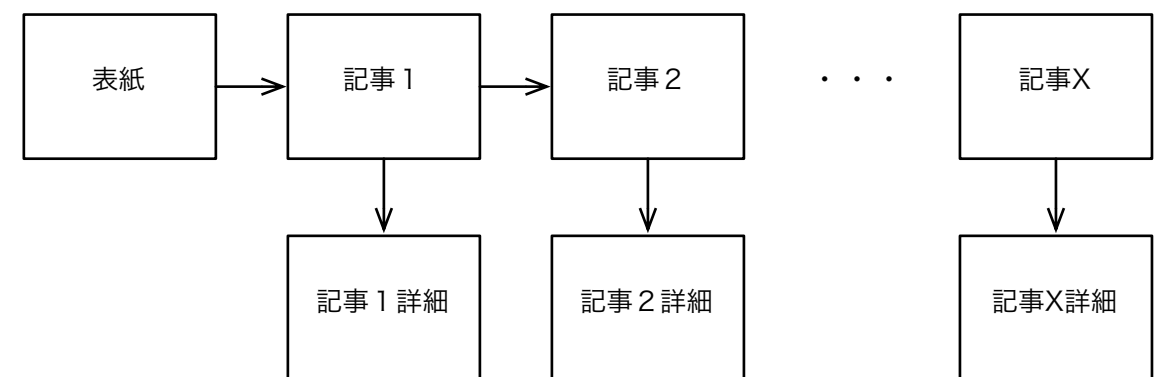
Financial Times

AP News

NPR NEWS

2. 雑誌媒体

- 個々の記事は独立しているが特有の文脈が作られている
- オンライン雑誌では、この「文脈」を作ることに工夫が見られる
- 課金方法、リアル紙面との差別化等は各媒体とも模索中
(GQでは、iPad版独自で広告を獲得している)

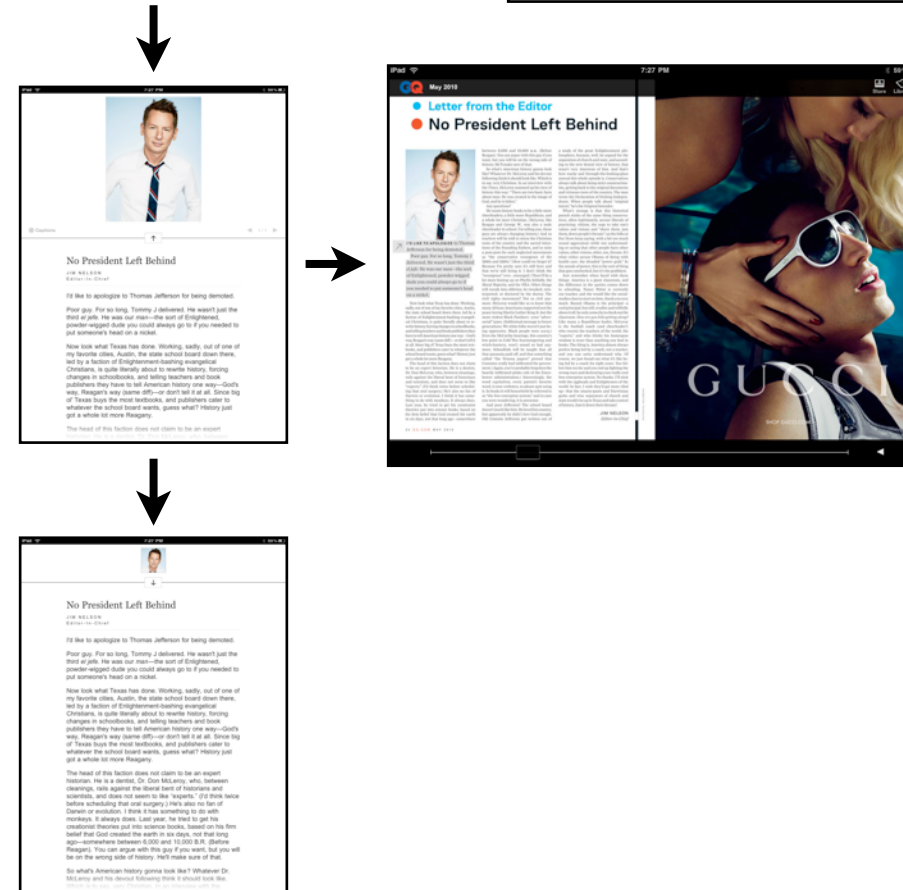


図：雑誌コンテンツの構造

GQ

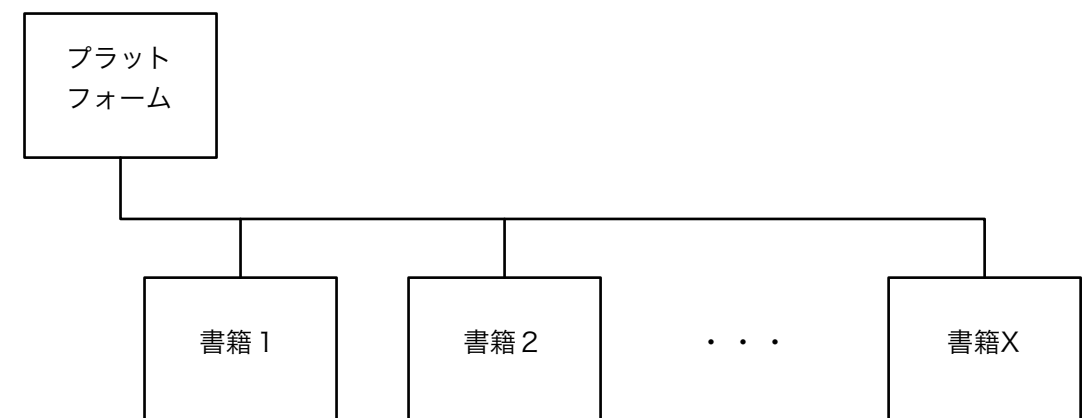


- ビジュアルページで流れを作り、興味をもったページを深掘りさせる構造
- 紙の雑誌とはまったく異なったレイアウトであるが、iPadでは読みやすい
- 紙面フォーマットでも読むことはできる



3. 書籍

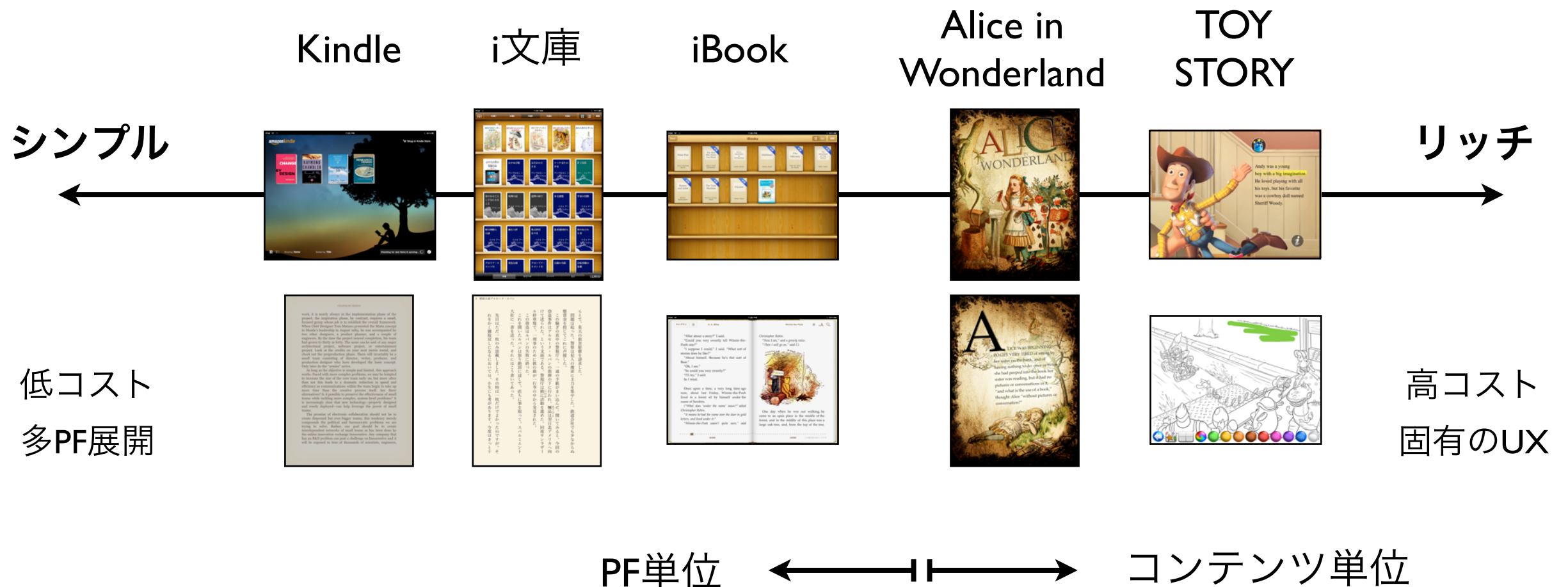
- 書籍メディアは、他の媒体と違い「プラットフォーム（リーダー）」と「コンテンツ」の関係を持つ
- 各書籍では基本的に一方向のコンテンツとなる
- フォントサイズ、ビューアーサイズが変わるため、既存の「ページ（ページネーション）」の概念はあえて残さなければ消失する



図：書籍コンテンツの構造

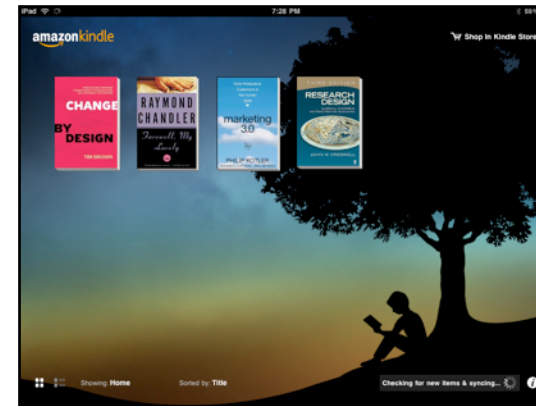
書籍プラットフォーム比較

- 書籍コンテンツでは、シンプルな方向性とリッチな方向性でプラットフォーム（PF）にバリエーションが見られる
- リッチな方向性では、PFではなくコンテンツごとの展開となる

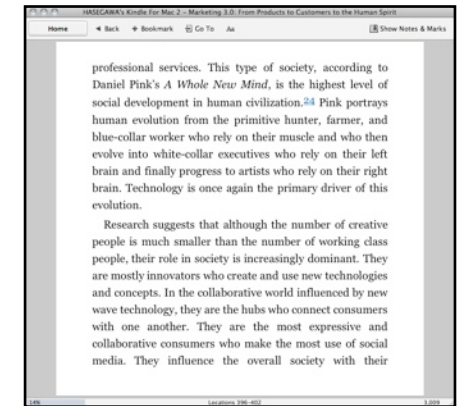


Amazon Kindle

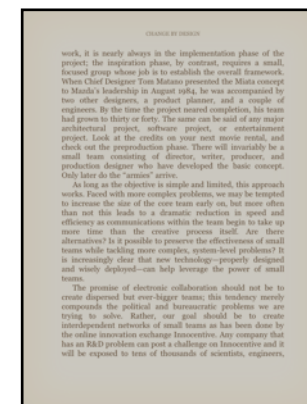
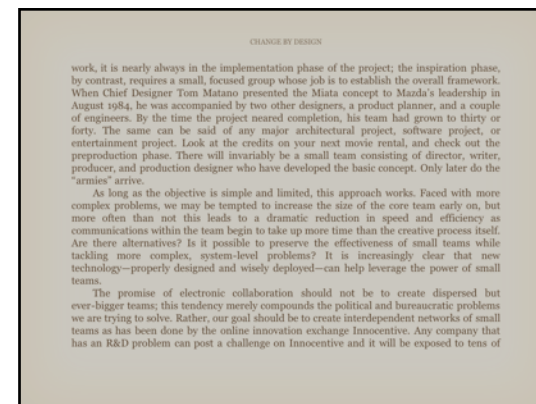
- Amazonによる電子書籍プラットフォーム
- 専用端末、PC/Mac、iPhone、iPadに展開され、UIも異なる
- 専用端末ではe-inkにより、長時間の利用が可能
- アカウント管理により複数の端末で、購入した書籍を読むことができ、しおりも同期される



HOME



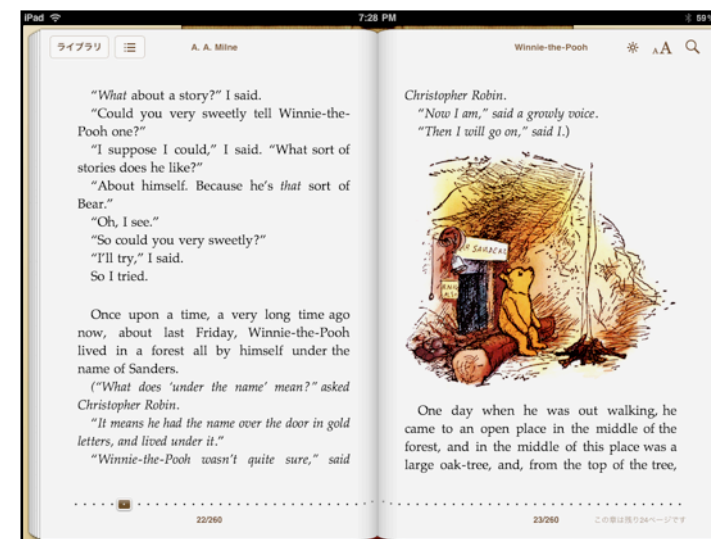
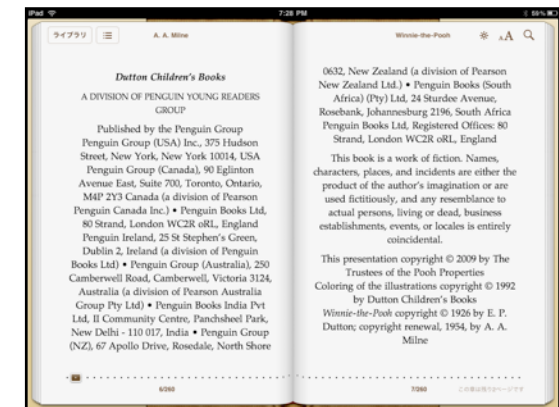
Kindle for Mac



Kindle for iPhone

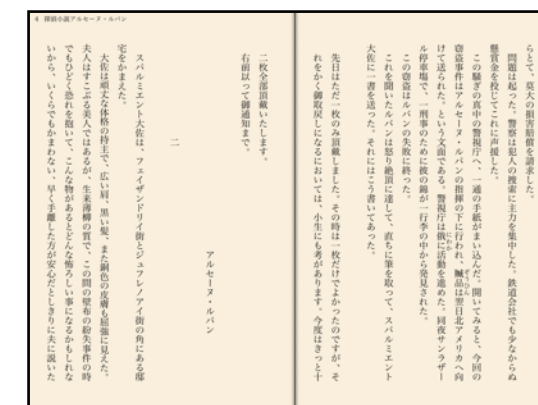
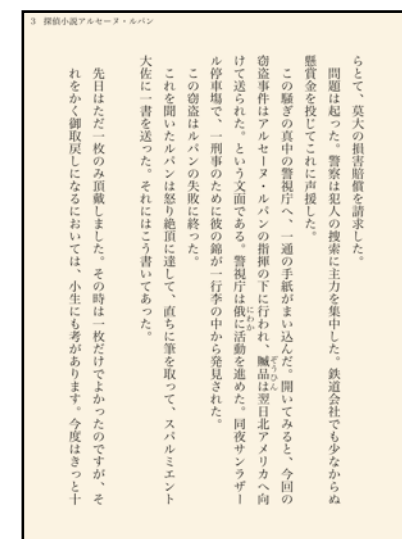
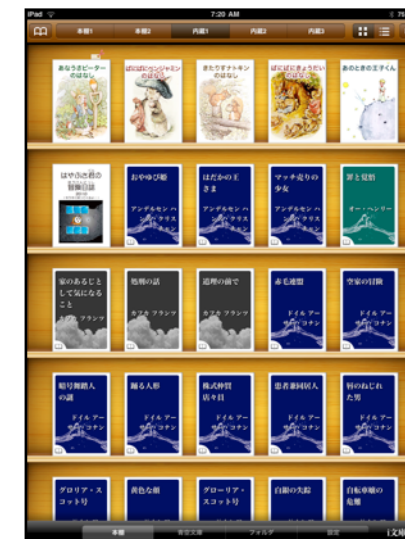
iBooks

- AppleによるiPad専用電子書籍PF
- コンテンツ自体はKindleと同程度のリッチさだが、iPadの表現力により、ビューアーが若干凝った作りになっている
- UIとしては、ページ数を反映させていない残ページなど、安易なメタファーも見られ、改善の余地がある



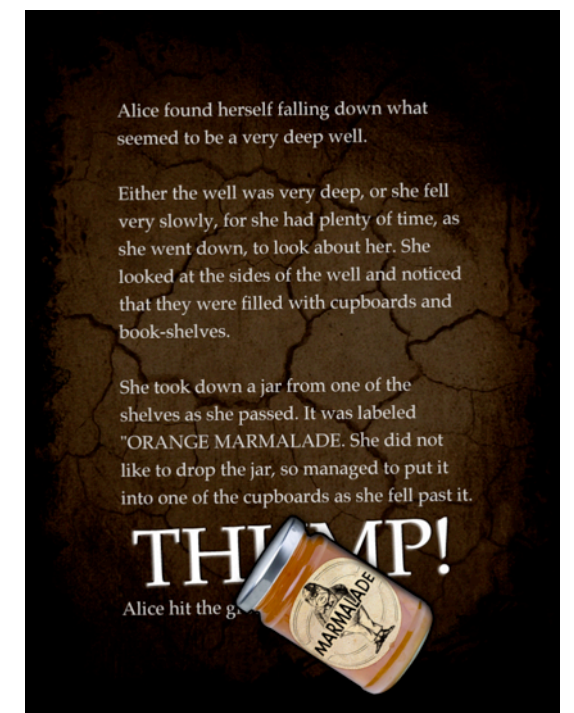
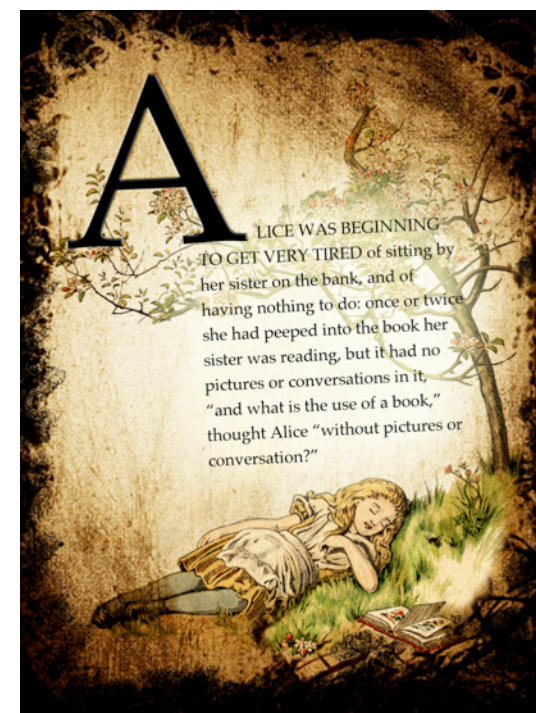
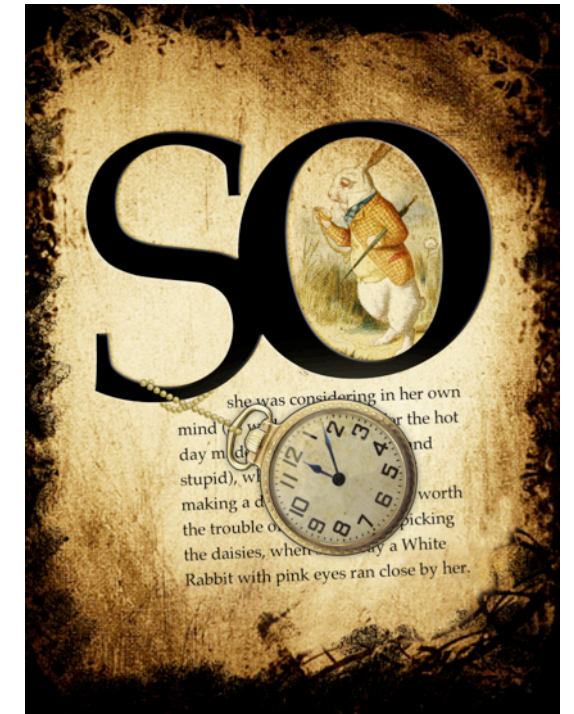
i文庫

- 日本語による電子書籍PF
- iBooksと同様のインターフェイスを持ち、文字サイズ等も変更可能
- 現在青空文庫の書籍と、自作PDF閲覧が可能
- PDFビューアーとして有用性が高い
- マンガなどのコンテンツも閲覧可能



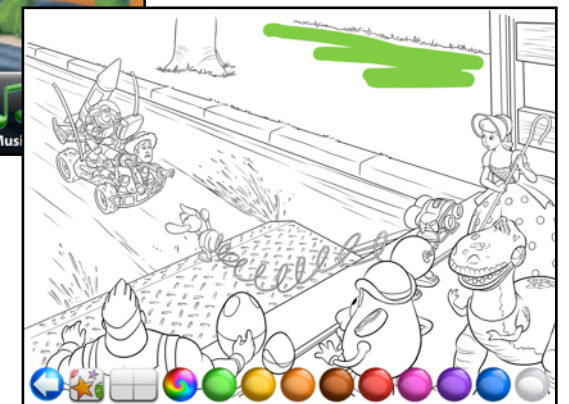
Alice in Wonderland

- 「不思議の国のアリス」 単独の絵本コンテンツ
- 趣を持った書籍デザインに加え、ちょっとした仕掛けが用意されている
- 1990年代に普及したCD-ROMコンテンツなどの構成に近いものがあるが、iPadのタッチパネルやジャイロ（傾きセンサー）が活用されている



TOY STORY

- TOY STORYの電子絵本
- ストーリーの読み上げ機能がある
- セルアニメーション、ムービー、ゲームなどページごとに仕掛けが用意されている
- 塗り絵モードなどの遊びも用意されている



参考：PhoneBook

- 書籍にiPhoneを埋め込んで、インタラクティブ絵本とする作品
- 紙面とiPhoneアプリケーションの連動により、本でありながら音や動きを楽しめる
- アート作品的な意味合いが強いが、新しい可能性が感じられる



Copyright © 2008 MOBILE ART LAB.
<http://www.mobileart.jp/phonebook.html>



concentinc.jp/